

## 前進する工芸

会期：2003年（平成15年）11月29日⇒12月7日

会場：広島市まちづくり市民交流プラザ・ギャラリー

報告：若山裕昭



辻氏

藤原氏

### 美術工芸教育における大学間研究ネットワークの構築

「前進する工芸」は全国の主要芸術系大学において工芸美術教育に携わっている作家45名の参加を得て開催した。

工芸における造形活動は社会の変動進展と共に大きく変化し多様化して、現在では他分野の造形活動とオーバーラップし線引きすることはできない状況である。しかしながら広島の地においては地理的条件や地域性の点から、全国におけるこのような現在のたような造形活動の変遷に接する機会に乏しく、新鮮な情報を入手し感性を磨くチャンスを得難いのが実情である。このような観点から次世代へのメッセージ「前進する工芸」を開催した。

「前進する工芸」展実行委員会代表の潮隆雄本学名誉教授は、開催にあたって次のメッセージを寄せている。

「造形の素晴らしさを感じるには「作品そのもの」に接するの

が一番です。そして出来ればその作者の話を知ることも、よりよい理解の方法です。日頃制作研究に模索している学生達や造形活動の現状情報に乏しい市民に、出品者の協力を得て各々の個性豊かで感性あふれるこの展覧会をご覧下さり、現在の変貌激しい社会の中に広く浸透しつつ行動を続ける工芸の現状を吸収していただければ幸いです。また若い人達には今後の自分自身の造形活動へのおおきな活動源となることを願っています。

さらに多くは作家達のお互い知己の関係にあり、その制作姿勢や作品を知る立場にいる作者間を芸術系大学間のネットとして連携していく展開の端緒となればと考えております。社会情勢も厳しい昨今、個人或はグループでの制作発表も難しく、また研究母体としての大学等の置かれている環境も非常に厳しく、今や研究機関個別の活動を模索しているときではないと考えます。最も後発の私達広島市立大学が発声するのは僭越とは思いますが、これを機会に日本各

地でいろいろな形で、研究・発表活動を展開する流れが生まれることを念じています。」

### 参加大学

東京藝術大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学、沖縄県立芸術大学、岡山県立大学、尾道大学、神戸芸術工科大学、倉敷芸術学大学、長岡造形大学、文星芸術大学、武蔵野美術大学、大阪芸術大学、京都清華大学、京都造形芸術大学、成安造形大学、大手前大学、九州産業大学、大分県立芸術文化短期大学、横浜美術短期大学、広島市立大学

助成：野村国際文化財団、エネルギー文化・スポーツ財団

後援：特定研究報告展中国新聞社、NHK広島放送局、広島市教育委員会、広島県教育委員会

